

第2学年国語科学習指導案

日時 平成18年 9月29日(金) 5校時
児童 男子4名 女子8名 計12名
指導者 所 礼江

1、育てたい能力

場面の様子やがまくんかえるくんの心情について、想像しながら読む。(ウ)
主語と述語の関係に注意して読んだり書いたりする。(言工(ア))

2、単元名 ようすを考えて読もう

教材名 「お手紙」 アーノルド＝ローベル 作 三木 卓 訳

3、教材について

(1) 児童について

児童はこれまで、「ふきのとう」で、だれがだれに話しているのか、会話文に気をつけて、声に出して読むことを、「スイミー」では、スイミーの様子や気持ち、海の中の様子などを挿絵を活用しながら想像を広げて読むことを学習してきた。登場人物の様子や気持ちが読み取れる言葉を文から見つける力は育ってきているが、それを別の言葉で言い換えたり、自分なりの言葉で表現することは、まだ十分とは言えない。

読みの視点について

児童は、「読みの視点」を「課題の答えを見つけるために気をつけて読むところ」として捉え、教師と共に考えながら設定している。「スイミー」では、「大きな魚をおい出したスイミーたちはどんな気持ちだったのだろう」という課題から「スイミーたちがしたこと」を読みの視点にした。課題文から「誰のどんなこと」を読み取ればよいかを教師と共に考えることによって、読みの視点を設定できるようになってきている。課題文を手がかりにして、自分で読みの視点を考えることができる児童もいる。

一人学びについて

「読みの視点」をもとに、着目すべき言葉や文にサイドラインを引いたり、その文を視写したり抜き書きをしたりし、その言葉や文から分かる気持ちや様子、言い換えをした言葉を書き込んだりしている。また、主人公の気持ちを吹き出しに書く活動も多く取り入れてきた。サイドラインについては、着目すべき言葉や文の前後にも引く児童がまだ多い。書き込みについても、書き込みの仕方を理解しているものの、自分なりの言葉で表現できる児童は少ない。

(2) 教材について

学習指導要領における第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。本単元では、「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子を想像を広げながら読むこと。」を重点目標とする。また、読むことの言語事項は、「主述の関係」と「かぎ」を重点的に指導する。

本教材は、がまくんとかえるくんという二人の人物が登場し、二人の様子が語られているところもあるが主として二人の会話のやりとりで話が語り進められていく作品である。一度もお手紙をもらったことがないと悲しんでいるがまくんを何とか喜ばせてあげようと、かえるくんが手紙を書いてあげるという心温まるお話で、ほほえましさを感じさせる。児童にとってかえるくんやがまくんは、自分と同じ、または友達として親しみがもてるであろう。手紙を運ぶのんびりやさんのかたつむりくんも、児童に親しみとユーモアを感じさせる。かたつむりくんが運んでいる手紙を待つ時間に、がまくんとかえるくんの性格の違いや手紙を待つ立場が逆転するおもしろさ、そして、相手の気持ちを思いやる友情が生まれるところが描かれている。

また、本教材は、時間的順序や場面の移り変わりの出来事の順序がはっきりしており、人物の気持ちや様子の変化を時間の流れにしたがって読み取らせることができる。会話文が多く出てくることから、読むことの言語事項「主述の関係」をおさえながら学習を進め、それを手がかりにだれの会話であるかをはっきりさせ、声に出して読むことによって様子や心情を想像することができるであろうと考える。さらに、各場面毎に挿絵があり、効果的に活用することにより想像を広げる手がかりになると思われる。

これらのことから、場面の様子や登場人物の心情などについて想像するのにふさわしい教材であると言える。

(3) 指導について

(本校の研究に関わって)

読みの視点について

それぞれの場面での「読みの視点」としては、がまくんとかえるくんの会話文や行動、様子があげられる。本教材はふたりの会話を中心となって物語が進んでいき、「かえるくんが言いました。」など「～が…ました」という表現が多く使われているこ

とから、会話文を読み視点にして、読みの視点の設定の段階で既習事項やこの会話文かを考えさせることによって読むことの言語事項「主述の関係」「かぎ」についても十分に学習できるものとする。

また、課題の答えを見つけるための「読みの視点」を教師と共に考え、おさえるのだが、課題文が手がかりとなるよう着目すべき登場人物「がまくん」「かえるくん」「ふたりとも」や出来事「家に帰って」「お手紙について話す」などが課題文の中に入るようにするなど課題設定を考慮し、児童が「視点」を導きやすいようにしていきたい。その際、児童一人一人が納得した上で「視点」を決定できるようにしていきたい。一人学びについて

今までの学習経験をもとに、どんな一人学びをすればよいか、読みの視点を手がかりとして教師と共に考え、決定できるようにする。

読みの視点を手がかりに、着目すべき言葉や文を抜き書きしたり、視写したりして、その中から大事な言葉を見つけサイドラインを引かせ、その言葉から分かる気持ちや様子、別の言葉での言い換えを自分なりの言葉で書き込ませる活動を取り入れ、叙述に即して想像を広げさせていきたい。

4、指導目標と評価規準

	指導目標	評価規準
関心・意欲・態度	登場人物の言動に関心をもって声に出して読み、かえるくんとがまくんの友情のお話を楽しむことができる。	登場人物の言動に関心をもって声に出して読み、かえるくんとがまくんの友情のお話を楽しもうとする。
読む能力	場面の様子やかえるくんとがまくんの様子を叙述に即して自分なりの想像を広げながら読むことができる。 (読ウ)	会話文や様子を表す言葉から場面の様子やかえるくんとがまくんの様子について理由を述べながら想像を広げて読んでいる。
知識・理解・技能	主語と述語の役割と言い方を知り、気をつけて読んだり書いたりすることができる。 (言工(ア))	文中の主語と述語との関係を理解している

5、指導計画・評価計画(別紙)

6、本時の指導

(1) 本時の目標

手紙のことを打ち明けるかえるくんと、それを聞いて感激しているがまくんの様子を会話文や手紙文に着目して自分なりの想像を広げながら読み取る。

(2) 具体的評価規準と児童への支援

	A、十分満足できると判断できる状況例	B、概ね満足できると判断できる状況	Bに達しないと判断した児童への支援
読むこと	ふたりの会話文や手紙文から手紙のことを打ち明けるかえるくんの様子やそれを聞いて感激するがまくんの様子を自分なりに豊かに想像しながら読み取っている。	ふたりの会話文や手紙文から手紙のことを打ち明けるかえるくんの様子やそれを聞いて感激するがまくんの様子を自分なりの想像を広げて読み取っている。 (ワークシート・発言)	会話文の音読や手紙文の音読を通して、様子を考えさせる。 板書をもとに、がまくんの感激している様子を考えさせ、まとめ文を書くことができるようにさせる。

(3) 本時の指導について
読みの視点と大事な言葉

読みの視点	かえるくんとがまくんの会話 だれが、～しました。(主述の関係) かぎ「 」
大事な言葉	かえるくんのお手紙

一人学び

・手紙文を教師と共に視写する。

・いい手紙だと分かる言葉を見つけ、丸で囲む。

(丸で囲んだ文や言葉がどうしていいと思ったのか、書き込みをする。)

(4) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点(・)及び評価()
つかむ	1 前時の学習を想起する ・手紙を待つがまくんとかえるくんの様子。	・前時に書いたまとめを発表させることにより、手紙を待つことにあきあきし、投げやりになっているがまくんの様子と、そんながまくんをなぐさめ励まそうとし、自分が書いた手紙を待つかえるくんの様子を想起させ、挿絵を活用しながら本時の場面へとつなげる。
4分	2 本時の学習課題をつかむ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ふたりは、どんなようすで、お手紙について話しているのだろう。</div>	・本時は前時までと違い、がまくんがお手紙が来ることを知る場面であることを確認し、お手紙について話しかえるくんとがまくんの様子を詳しく考えていこうと本時の課題につなげる。
ふかめる	3 学習の見通しをもつ 読みの視点を決める。 「かえるくんとがまくんの会話」 かえるくんのお手紙 だれが、～しました。かぎ「 」	・前時までの既習事項から様子を読み取る際には会話文も使ってきたことを想起させながら、だれの、どんな会話文を見ていけばいいのかを、課題文を手がかりに考えさせる。 一人一人が納得して読みの視点を決めることができるようにする。 ・会話文を見つけるときは、「 」や、～が…しました。に気をつけることも触れる。
	4 学習場面を読む (1)学習場面を音読する。 ・がまくんの会話とかえるくんの会話を抜き出す。 ・お手紙のことを打ち明けるかえるくとそれを聞いたがまくんの様子を読み取る。 「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」 「きみが。」 (2)一人学びをする ・かえるくんのお手紙を教師と共に視写する。 「親愛なるがまがえるくん～きみの親友、かえる。」 ・いい手紙だと分かる言葉を見つけ、丸で囲む。 (丸で囲んだ文や言葉がどうしていいと思ったのか、書き込みをする。)	学習範囲 P.120.6 ~ P.140.8 ・全員で手紙について話しかえるくんとがまくんの会話文を見つけながら音読をさせる。 ・ふたりの会話を分けて紙板書を貼る。 言:会話文(《だれが～しました》とかぎ「 」)を主述に気をつけて見つけることができる。(発言・観察) ・なぜ、かえるくんがお手紙を出したことを打ち明けたのか考えさせる。 ・がまくんの驚いている様子を読み取らせる。 挿絵のがまくんの表情からもその様子に気付かせる。 読:かえるくんがお手紙を出したことを打ち明けた様子と、がまくんの驚いている様子について読み取ることができたか。(発言・観察) ・字などの間違いがないよう正しく視写をさせる。 ・親愛なるがまがえるくん きみが、ぼくの ぼくの親友であることをうれしく思っています きみの親友、かえる

36分	<p>(3) 学び合いをする お手紙の内容を読み取る。</p> <p>5 本時のまとめをする (1) 課題のまとめをする。 「かえるくんのお手紙」を聞いたがまくんになりきって、かえるくんにお手紙を書き発表する。</p> <p>(2) まとめの音読をする。 手紙文から最後まで音読</p>	<p>がまくんがうれしいところをわけをつけて発表させる。 友達の考えと比べながら聞いたり発表したりできるようにする。 かえるくんはがまくんを親友と思い、それを知ったがまくんが感激していることをおさえる。</p> <p>自分なりの言葉で書かせ、がまくんの気持ちに共感できるように発表させる。 読：かえるくんの手紙文からがまくんの感激している様子を想像を広げながら読み取ることができたか。 (ワークシート・発言)</p> <p>いいお手紙であることが分かるような読み方をするよう促す。</p>
ひろげる5分	<p>6 本時の学び方についてまとめ 次時の学習について確認する。 (1) 学び方の確認をする。 (2) 次時の予告をする。 (3) 自己評価をする。</p>	<p>「かえるくんとがまくんの会話」、特にかえるくんのお手紙について詳しく考えたことにより、ふたりがお互いを大切に思う様子がよく分かったことをおさえる。 ふたりとも幸せな気持ちでお手紙を待つ様子を学習することを確認する。 ワークシートに本時の自己評価をさせる。</p>

板書計画

お手紙

かだい 　　ふたりはどんなようすでお手紙について話しているのだから。

してん 　　かえるくんとがまくんの会話
「……が……ました。」

がまくん
「かえるくんどうして「こも来やしないよ。」びんぐりえまほんどっ？」
「きみが。」
「お手紙になんて書いたの。」
「はやく知りたい。」
「あめ。」
「とてもいいお手紙だ。」

かえるくん
「だって、今ぼく……」
「きつと来るよ。」
「だって、ぼくがきみにお手紙出したんだもの。」
「また悲しんでる。なんとかなさきや。がまんできない。言っちゃった。」

一人学び 　　だいたいな人に使う
しゅ 　　親愛なる　　がまがえるくん。
だれよりほくだけ　　ほくのことを一番の友だちと言ってる
ぼくはきみがぼくの親友で
あることをうれしく思っている
ほくは親友だということがうれしいんだね
ほくには親友がいるんだね
ますきみの親友、かえる。

まとめ 　　がまくんからかえるくんへ　　(がまくんの気もちをつたえよう)

アーノルド＝ローベル

挿絵

書きこみ
いい手紙だなと思うところを丸でかこむ